

# 各学科の教員配置数に関する調査

全国高等学校農場協会振興局

## 1. 目的

農業科教員は、授業や分掌などの職務を行うほか、外部との連携、さらに、広大な農場の管理、実験実習施設・設備等の管理を行っている。教員の職務内容は多様化するとともに担うべき責務も大きくなってきている。

このような状況を改善し、充実した農業教育が実践するためには、農業科教員の職務を軽減することが第一であり、そのためも教員の適正な配置が必要である。

今回のアンケート調査は、農業関係学科の教員配置の実態を把握するために実施したものである。（※農業科教員とは、教諭・実習教諭・実習助手をいう。）

## 2. 対象

農業関係学科を設置している高等学校

回答数 306校 665学科（10月1日現在）

## 3. アンケート結果

### (1) 農業科教員の配置の実態

調査結果から、単学級の学科であれば教諭4名、実習助手2名となる。

学科別にみると、農業・園芸などの生産系学科で教員配置数が多くなっている。これは、遠隔地農場の管理などの考慮したものといえる。

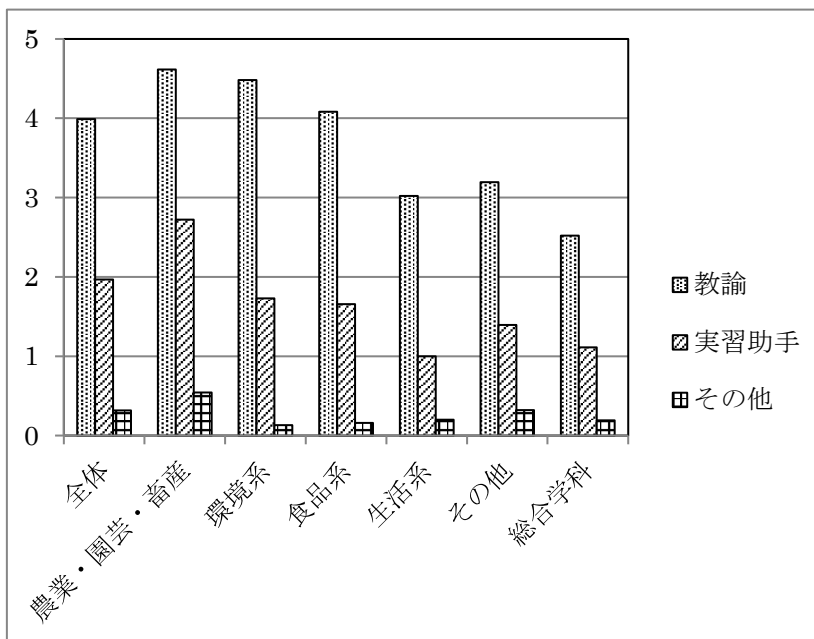


図1. 学科の種類毎の教員配置数（なお、実習助手の数は、実習教諭を含む）

また、生活系学科やその他の学科では、商業や工業などを専門とする教諭が配置されている例もある。

## (2) 教員定数の基準との比較

次に、単学級学科では教諭4名と実習助手3名、2学級の学科では教諭7名と実習助手5名としている都道府県もある。ここではこれを基準として、以下考察する。

### ① 教諭について

13府県で基準以上の配置がなされている。これは、遠隔地農場の管理などの理由が考えられる。農業・園芸系の生産を伴う学科は、4～5名の配置となっている都道府県が多い。また、環境系に関しても教諭の配置数は基準以上となっている。

一方、食品系で4名配置となっている学科が約6割ある。また、生活系学科は3名配置が多い結果を得た。学科ごとにみると、教員配置に差があることが見て取れる。

### ② 実習助手について

生産系の学科は基準を満たしているが、環境系・食品系では2名、生活系と総合学科では1名となっている。生産系学科では農場管理などの負担が大きいことから他学科から定数を減じて、実習助手を比較的多く配置する傾向がある。

実習助手を配置せず、行政職の技術員や非正規による作業員が配置されている学校もある。また、これら技術員や作業員も配置せず未補充の状態が継続している学校もある。

## 4. まとめ

教諭の配置では、学科間の差はあまり見られなかったが、実習助手の配置においては、差が見られた。また、専門学科と総合学科においては大きな差が見られた。

教諭に関しては、学校規模に応じた配置基準があることから、学校間や都道府県での差はあまりない。しかし、実習助手においては、全国平均で1学科2名との結果を得た。これは、必要数を配置せず、管理に特化した職員や非正規雇用の作業員等で補っている実態が見られた。

このことは、労働力不足を非常勤職員や非正規雇用により補充する傾向がみられるが、実習助手においてもその扱いがなされていると言える。

実習助手は、教諭を助ける職務を担っている。非常勤職員や非正規雇用者では、実習助手が担うすべての職務を果たせない面もあり、教諭が担うべき職務がより多くなると言える。

農業科教員は他の教科に比べ、実験・実習においては危険を伴うものも少なくないことから、安全・安心で充実した教育環境を整え、生徒が自ら学べる環境づくりをつくるためにも、農業科教員の増員を強く要望する。